

令和元年度 事業報告

法人事業概要

マーシ園は昭和34年の事業開始から60周年を迎え、10月には記念事業として式典・公演・記念誌の発刊・法人旗の新調などを盛大に祝いました。60年の歴史の上に今日があることに感謝し、新しい時代に相応しい道を力強く切り開いていくことを誓いました。

マーシ園すてっぷの再編として、就労移行支援事業は令和元年度をもって廃止することとしました。一般就労の増加など利用ニーズの減少、A型事業所の新規参入など社会資源の充実や就労支援人材不足等により円滑な運営が難しくなったためです。

また、給食業務も木の香新築以来16年間委託しておりましたが、人員確保が困難なこと等から撤退され、令和2年度から直営に戻すことにいたしました。

この他、福祉人材の確保が益々厳しい中、職員の資質向上を目指して、「怒りをどうコントロールするか」や「虐待か否かのグレーゾーンへの対応」など、より良い対人関係と効率的な業務について研修を深めて、働きやすい職場づくりに取り組んでおります。

2月頃から新型コロナウイルス感染症が世界的な流行となり、感染防止に伴いマーシ園の展示即売会、園内行事、外部の会議や研修等の中止、受注の減少など運営面での影響も大きく、さらに利用者と保護者・職員や家族に対する感染防止対策として、外出自粛、マスクや消毒液の調達など、マーシ園全員が心を一つにして取り組んでおります。

今後も利用者さんから「選ばれる法人」であると共に、多くの人材に働きたいと思われる法人となるべく、魅力ある職場づくりを進めてまいります。

法人財務状況

令和元年度は、前年度に引き続き、安定した経営を行うことができました。

法人全体の財産の内訳は、資産の部で現金預金等の流動資産総額420,125千円、土地、建物、備品等の固定資産総額1,062,108千円で、資産合計は1,482,233千円となっております。

負債の部は、流動負債総額64,425千円、固定負債総額40,710千円で、負債合計105,135千円となり、差し引き純資産は1,377,098千円で、前年度末比42,340千円増となりました。

事業活動による収支では、人件費や事務費等の削減に努めるとともに、研修等により専門性を高め、加算取得に努めた結果、多くの事業所において、好調であった前年度を上回る結果となりました。

施設整備の面では、なんと共同作業所が入居している旅川福祉交流館が、南砺市公共施設再編計画で譲渡又は解体とされており、先に市から購入したホームふくの裏の北側隣接地に移転新築することとしました。令和元年9月、工事費154,550千円で発注しましたが、鉄骨ボルト等の調達が遅れたことから6割相当を繰り越し、6月末の完成を見込んでおります。

木の香では、空調設備が新築から15年経過したため、電力需要の低減に資する設備投資補助金を活用し、全面的に更新しました。また、電動ベッド10台を3年計画の2年目として更新し、故障が頻発していた厨房の冷凍冷蔵庫を更新しました。

これらの整備により、経済的自立を目指す障害者への福祉的就労の場の提供、利用者の快適かつ安全な日常生活、より充実したサービスを提供することができました。